

7月21日(水)16時30分 CRT スタジオで収録

本の読み方を考える

開倫塾

塾長 林明夫

1. 「本は、『印』をつけながら、『線』を引きながら」読む

- (1) ①「横線」や「下線」を引く
- ②「」…「かぎかっこ」をつける
- ③○……「丸」で囲む
- (2) ①色えんぴつ
- ②ボールペン
- ③ラインマーカー
- (3) 四方を線で囲む



2. 「本の各ページの余白（空いているところ）に書きこみ」をする

- (1) 「自分の意見」を書く
- (2) 「辞書」でも調べたことを書き写す
- (3) 「内容」をまとめる。「大切なこと」を書き写す



3. 「大切なところは、声を出して読む」

- (1) 「スラスラ」、よく読めるようになるまで、「読む練習」
- (2) 「音読練習」を繰り返す
- (3) 声を出して読めば読むほど、本の内容がよく「理解」でき、「身に着く(定着)」する

4. 「書抜き読書ノート」をつくる

- (1) 気に入った文章があったら、一行でもよいから、書き抜く
- (2) 本や文章、論文を読み、大事な内容は、ノートにまとめる
じっくり考えながらまとめ「ノート」を作成する
- (3) 「まとめノート」は何回も読み、自分のものとして身に着ける



5. 「一度読んだ本は何回も読み返す一本は6回読む」

- (1) 読み返す時に役に立つのが、
 - ・「印」をつけたところ。
 - ・「線」や「」（かぎかっこ）「書き込み」したところ
- (2) 読み返すときに、何が大切なかわかるので、「書き込み」は大切
- (3) 大切な本は6回読む



6. 「本の読み聞かせ」をする

- (1) 聞いてくれる人がいるのなら、これぞという本を選び、「本の読み聞かせ」をする
- (2) 読み聞かせの「対象」はどなたでも OK
 - ・小さな子どもや小学生は、喜んで聞いてくれます
- (3) 「読み聞かせ」をする前は、何度か、「朗読」の練習をする
 - ・作者や聞き手の気持ちになって、ゆっくりと間合いを考えながら、本を読むこと



7. 他人に本を読んでもらい、それを聞く。「朗読」を聞くのも面白い

- (1) 何十年前前、東京神田の岩波ホールで、朗読会があり「ツルの恩返し」「夕鶴」の話をお聞きしたことがあります。木下順二著「夕鶴」。「つう」は山本安英、「与ひょう」は宇野重吉が演じました
- (2) 読んだ本が原作となった劇や映画を観るのも面白い
 - ・シェイクスピアの 37 作品のすべてを、ゆっくの読み、そのうちのいくつかを映画(CD でも可)や舞台上で鑑賞できたら、どんなにか素晴らしいかと思います
- (3) 「マンガ」も立派な芸術作品です。是非、読書に含ませましょう!!



8. 2024年のNHKTVの大河ドラマは、紫式部作「源氏物語」がとりあげられるそうです。ならば、これから1～2年かけ「源氏物語」に挑戦するのも興味深いと考えます

— 2023年7月21日記 —

